雑談紙屑籠初編

中

へ13
3125
2

特
へ13
3125
2

雜誌紙屑籠初編　下之巻

十返舍一九著

○ぬるきさ〻雨の旅芝居坊主の体出く
ちゝ出の若後家の新造代役

遠国の人氏。法小ろ〻をみるたゞろう。生るがゝの富
士ゝと云ねてるがむる。東海道の賑ひ。生薬の價
やゝ〻。飯盛の初まあろう。よりふまをせて。移ふ
くけ出〻〻孫ろうがゝも。我ろ〻ぞるゝろ出を。

[illegible]
[illegible]中の、とのゝ。舎の洗濯ふ。うゑを生ずる切株の
[illegible]土。雲ゐゝゝつゝりの二とせ[illegible]の秋をふ山よ[illegible]
ゝゝ。通[illegible]を[illegible]て坊中ふ一宵ゝ。[illegible]ふ油揚
のゝ[illegible]ゝ。[illegible]ふ[illegible]ゝ。綿[illegible]き蒲
[illegible]て。[illegible]猿の呼ぶ蝉と中。[illegible]ゝ孫
もやぎ。あれば[illegible]ゝ。戸[illegible]て[illegible]
川よりひ。山[illegible]ふ[illegible]。[illegible]ゝ。三里の嶮
雑と凄ぎて浦川ふ[illegible]。[illegible]ふ[illegible]人を[illegible]て。

[illegible]ゝ。[illegible]ゝ。[illegible]ふ。[illegible]て
見るふ。[illegible]ゝ。樹木ふ竹と結ひつ
けて[illegible]ゝ。[illegible]ふのゝ。[illegible]の黄
ゝと者ゝて。[illegible]ゝ酒のかゝ[illegible]ふ
引ゝけて。[illegible]ゝ。[illegible]乃
ゝ。秋[illegible]の係ふ[illegible]ゝ。大雨ふ[illegible]て。[illegible]
ざゝ[illegible]ゝ。[illegible]ふ見[illegible]て
酒揚とふ[illegible]ゝ。[illegible]ふと

さきつぶをふで。ゑんまの同体の人くもあらくも。年
玉のゝ文遣て。古屋拵とゝ尺そゝ。ゑ年の松の寿
ゝるゝふ。羽織ゝゝさでとゝゝて。結人をとるゞゝ
つ。楽屋と尺ゝ。衣裳箱壷の中ふ反のゝゝ
ゝ子ゝぶとゝゝ。紙合ゝちゝ。出ゝ初日ゝね
ゝぶあゝゝゝ。尺ゝぎに人ゝ。動をゝゝ。ちとと
ゝふ笑ひせゝもおゝゝく。ゝぶゝくあゝて。ふ反ゝゝ
ゝふ。ゝゝを遣ゝいで。ある幕ゝの休拵ゝまゞゝ

なゝゝちふゝちよゝゝゝゝ。あゝゝゝの女房とおゞゝきゞ。さ
のゝ尺ゝ。刷でゝゝゝゝ。髪ゝ油ゝ
絞て。おゞゝのでゝふゝ丸せゝを係ふゝゝで。渋
茶ゝちいで。ゝゝくふ抜抜ゝゝゝ。詞ゝ鬘
きゝれどもゝゝ。ゝゝ敷番ふあるふ。さふゞゝ
農ゝの業ゝゝ体ふ尺ゝぶと。ゝゝ同体の人ふ
むゝひて。ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ人のゝゝ。ゝのゝ
あゝゝゝ。ゝゝゝ美代ゝゝゝゝ。ゝゝの女形ゝ

元来此方の故生とあるが。先年まの雨の芝居ゑ
きてうして。ゆく〳〵お旗さま役と勤〳〵ゑ。彩保香大ちと
いう寺の住職さつの弟元ゑ。お市毛賀阪ゑ
かくて寂光のあまりゑ什物の寄い佛まで寄〳〵拂。
その孫ゑて家作し。さつゑ嵯峨流の屋をき人させ。朝
夕るさつの姿さく洗ゑ。安ゑ。ときえめて時合ちうし
ゞ。たち〳〵ぜとゑ信のわさ孫。帝ゑ。だと時。ちづゝ七八十
ちをとて食場〳〵。敬死せ〳〵ゑ。ちとて。ちう。貴代三郎ゑ。

ひさ〳〵。ばゆゑ居つきて。あく〳〵孫芝ゑを孫ぎて。
よをさきうおさきうといふ。さゆゑ一のうちゑ。ちを文ちゑ
わより海〳〵。人ぐをたてゑ。ちを丸ちと寄るき。中ゞ〳〵
寄〳〵へて清ゞ入るゑ。ゆ屋敷ゑ四〳〵の郎。四畳ゑ四〳〵
ちきて。ゆ〳〵の寄紙ゑて〳〵ゑ。かさまゑゑ。ふか葛籠
家ゑ目ゑ。とつゑあげて。ゑ〳〵なゑ〳〵の蔓蓮をとゑつせ
撫織ゑ目ゑ。孫ちゑ。ゑとゑて。かとづけ。あくゑ江戸去屋
の稀絵ちう〳〵。塗つちめゑ。ゑとゑ。ゑりぎ〳〵て

ニ歳ばかり。たまゝ年ばかり千あまりゆゑ人。髮の毛
うつくしく。減くして医者のごとく。ぐんそうあるゆゑ。さるとも
白地のゆかた。袴をひきづりそのゆゑ出見ぬ者でご
ざうまつさう。おやゆくの家でと。妻女の出品ホ
盃をもち入かも出。子めのくむ。重箱ホ蓋ホまゝ
ら入てあるちのぐら。出る人おきるゝ。酒肴てきこうを
まつと見入し。女房乳のくみをとゝ化つけてゐるうち。
十二三のかゝぐ。金ひの莫所手の拳。指せるきをいぶ

紙屑　下四

きよりや。借て持きうと。女房ちあて横ホむきび。
ゆさ死土瓶ゆて。湯のかんをしかも当内。真夏ちゆ
宵とぬうさぐ。さるぐの咲の序ホ。手所のむう
をとうろう。彩れ都ゆて。よゝ有かの〻絣るゝ。
初かゆて両親ホうとし附。親仁大分の借金を。
あゝげるゝ。ホゝあの見。親族解ホつ化て。所上紙
人のものと彩ゝ。ホ分い擂彩まへ引ちゝ見。ゝ十三
ぼのこゝゆも見べ。和尚をゝ化ゝ。茶をとうゝ

て。墓堂の参詣いとまなくて。三沢の洞寺分
所あるまでも。三度ばかり参詣べりつと。極べるゝぬ
尾ばかり。その苦しさ。十方のさーらゝ
めゝき尾ばを。とけて。寺を欠落ゝ。三沢の方形く。
結ばれ。最の清貧。まるかのふ。者人あるて。見とさのゝ。
花柳。数々。ふ女形の弟子ゝ。ゝ。ふ。田舎人。孫
のゝめ。後出仲間人。実ぜゝ。ゝて。ケけあるき。いまぐ
年ふく。弟ふ。沼度のおけしゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。寺

ぐこの。ものとなる。ゝとて。ゝへおの人ども。さるとも
おの及の。格ばと男ひるみぐゝ。品さ人。結へ十のうき
ことなるよ。まして。やえ者。きぬ。序。土の人の。拔
媚をとう。おぐぎと。ほことかこゝ。けゝ。ひるとくさき
天寿をとの。せゝ。ゝ。ゝ。その。無しき。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

男あるよう。金持の第一き後南あるあるし。
金ふ入て美ちるかの沢山ふ世ひ衣裳拵ねな分
ちーらて世ふ多紀ふく。かよだね鼠の皮あつうま
きとのくあもひろうせど。すとよう鼠屋のあるさ
るとべ天道さるるるかあてべいの家。ろくるものハ
ちく。花の形へまさ移家。男いるるく腰良ぞぐふい
同もくとぞ。るるく大家の後室の古血さい紅。先
斗町の貧座敷ふ。出来生のうち。ろ前と拵ふ

せくるて。金ふかまハ袋羅の人まるあるよし。役
者仲宮の大ふくをきて。鼠ふ拵の穴ちくく。
そとよう猪ふひをやあて京ちくく。鼠長者町の
子どもまくをくあく親ちとうて掛りくるる。
とよいくちまけ
ちる青ハ鼠ふ。よれ後家の家あるるくふ行同
ふても鼻ちけゆても。女でくあるべ拵ふちくく。
ちる月ハ。歯ちぐれもひく袋つうひてをちるくし猪の
つめ
爪ふくちう。本城をちけてちう化あげ。砂ゆあぐるくく石

垣の茶屋より。がるのかのぐ方来るを。はらうとて。
愛宕の石段うちふく。弁柿をとく。ゆて。茶やふり
座敷ふいてとべ。床のはるのおふ。拵熊入れとまられ
そふ分大の法師。彩絵やうなやとて。赤くだしを
新色。長柄をて。弁柿をとり。法師
ゆるさきすぐさ。やを。彩やゆ。家の口明るふ。まくさいめ
坊主とぐ。ぐるくしこ。あり人ぐ。逢方。ちく。座ふつく
とろの法師。その拵をふ。おろを。ちを。八おらろ。ふ

出。かちらづ。ふひ。ひ。さ。ま。ま。ま。ら。と。像ふ。ちを。
ろ。見つた。せ。ろ。ふ。拵。ぞ。ろ。と。ら。ま。ら。
形ひ。ま。て。一。向ふ。出。ふ。ま。ま。ぬ。と。ひ。ま。せ。ば。
茶。拵。く。出。ふ。ま。ら。ぐ。ふ。ま。ま。せ。ま。ま。ま。
さ。ろ。く。ま。ら。ふ。茶。ば。拵。ま。ま。ま。ま。
ば。ふ。ふ。ま。ら。ふ。ば。ば。ら。ま。と。ば。会。ち。ま。体。ふ。茶。ば。
せ。ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ゆる。人。の。ふ。ま。ち。ら。ば。ふ。ま。ま。の。気。ふ。入。ゆ。ま。と。茶。ふ

夜の女房。たゆ屏風ひろげまゐらせて。客人さまをちと
あちらへお出なさるさまとて。新も古も世
間をはばかるくきゝ。獲物もなくて。逆てもゆく
ばかりの。あくきゝ。獲物もなくて。逆てもゆく
らもとぎとてくゝ勤て。ふりく出来ぬあき
たて。新ひらき私ども。かどゝ。坊主ゝ。
ぶるひゝて。明かけども素湯ハ坊主くさくて呑ぬ
くゝひゝ。おぞげとふるひ居ゝしゝ。ある夜帰りて
ひゝゝ。ぞりびのたゝゝ草さらしるどゝ。
紙屋月下　八

ねゝゝゝ。灯を花いでゝ。出ゝゝくちゝゝゝを
箱開ゝて。おゝゝねゝゝ。二分の中へ親
ゝの金まゝけゝ。人ゝゝゝあゝゝ。ゝ所ゝ
よびゝまゝを。ゝゝ良まゝゝの男きて。あの茶やへ
よゝく女あのあゝちゝ。ゝ者ゝ。ゝ。お屋の
ゝゝゝゝんゝ。兼て赤の女の坊主ゝ。
をゝゝてゝ。かゝゝひて。ゝ。ひゝゝと。ゝゝゝく
茶漬生ゝびゝゝて。ゝゝ茶やゆけゝ。ゝゝ二階

へとらふふようて。階子のぢうんとまろこれ。うちの仲間
さまの背中をうちて。あやうりめと笑ふと。毎
さまとあぐうて丸まび。安西ふこびまど。年の頃世四文
柳の枝ふさうの花を咲せ。梅の匂ひと。はけうこよ
そそひの後ちの。そのうりうさ。市敏うぷ。みて。
なえ
[illegible]の[illegible]ある新身。人間ふこびまこぶふ垂つきて。ちうぐさ
へうちうこと。ひうきて。ちうこいわぐふあもん。先初の
こうぐ。ひいさまと。俄ふ嘩で。死て。まげうーちまま

新をそむけて座よるをれば。後ちさもう見しけふ
完ふくこうて。盃をうあげ。貴の三味を弾るやう
る三味ふて。さうまふふよふこそまげひうあげまうう
うこ。さうまー時ふ。貴の助のようはこうこうこうう
ふ。盃ふ[illegible]ふる。酒ふゆうまぐうて。膝よかう
まどかるへど。美中ふるうてひきて文こそまうふ食
もいで。ちうこふまこうふ。ちうふ座をうこうるの。
さての仲無ごふいまのきうねと。ちう文のちうこう座

をまちうけ。ひとりいうふ酒ふるべ。なまりことばや
行藤の侍合よ。ながくまことを出せば。後家近くまゐ
よりて。さあうあらべ。おまう殿の出ませぬさぬふ。お
このこゝやでおきまゐせう。ひとりへ三条きの長屋の後
け。去年おりとふこうをとて。当年十二月ゆるむをて
の後見て。高賣してへ居まゐれば。連合なとてう
をまりてよう。侍方の長屋。ひとりこの得を家を
せうおとさまとまゐへ。昨日唐山ゆて。おこくめのお

寺ごをを。弱ごを侍待ていよく家業お績いと
まをやうへ。樽ことをおこのこやとまをとひこうご高
多役ゆて。振舞いこまをとぶ。その正家純賣寺振
しらへ。ある者をつをあれと。林の外の出家へ切そのお
うこのおうげゆて。ちをまをでへ南門も多分いこまを
こをゆへ。弁一のお家。母の高こをご。毎朝法ごちまを
おこをの汚も者をまをとまをと。ちをの出ををへお後
いこをこをゆへ。紙おこもをさなへ。いこりて若衆ごお好ゆへ

明日ごれぞ。紙やまれ子どもに所を。れ持ふこのんごう
よろろこと。やさるふつれ。そるこれ人さの内儀と彩まて。
邪の品出れごとろれ。其紙屋ごもる拵へ品物とをて。おきふ
いるころふ。ゆごともあるこのあ紙を貸ばこの中るは
用でもきれて。ちんせてりさるやこ。ほくもこのこまま
ちの人。毛彩ろふれ。型紙地のきれふて。紙入ほろと。ちこて
さんせてをせます。此中るは内儀ごと。新参酒ちる
ほれくの方支れ。るほてくちう中さまをませぬゆ。

れ安う。そちこと彩こまをかるこごく。そのごん
ごんちさるゆごを作せこまうと。きれてりさを。
はこを彩これだろふ。よびふちんせまこ。あ
され盗はれこのこまま。お内義さるは。てん
ちゆおゆるさまここ。いよく宵遠ちく。ちの
ろれ彩れさを。ゆる赤山ぺちこて下さるこふ彩こ
まを。さこべやといとゆごひこて。これそゆく後家の
ころ姿をこ。こ〜げふ見ちこ。ちこをかし

ぜんゆうとるうそうこう人林生員まつこその純粋寺の場
主わふ。さんちゆるるう情ちゆこ。あもりくちぐひふ
ちーもぬけて。ぞごく宿人攻りうるが。俗麻おこて。
その赤山人ちとうそくもりぎ。そそこより三やちも
おうーううざと。まこ籠せこ赤人出けり。こうぐ考ゆて
まこ。ぞ出京まつの世俗ふるうそそこるうりうふさもべ
都とあきこめて。三十年本の田今住者。ちこそも
まーうとかこうを引り象

第六

街巡む軍合点